



**「そもそもマーケティングとは何か？」  
その定義や考え方、フレームワークを基礎から徹底解説**

“マーケティングの本質”を体系立てて学ぶ入門講座

# 間違った使い方に陥らない 実務で使えるマーケティング思考・フレームワークを学ぶ

## 開講の背景

マーケティングの基礎知識や代表的な手法をインプットする講座です。「マーケティングなんて、自分には関係ない」と言える時代ではなくなっています。いかに顧客と向き合うかという視点は、マーケティング職のみに限らず、全てのビジネスパーソンが持っていないことはありません。広告・宣伝活動や製品の作り方ではなく、商品やサービスが自然に売れる仕組みづくりから、用いられる基本フレーム、それらの正しい使い方までを学ぶ「マーケティング基礎講座」を開講します。

## 理解の手順

「そもそもマーケティングとは何か?」を知ることが、なぜ重要なのでしょうか? それは、顧客視点を身につけられるからです。商品を「誰に」「何を」「いくらで」「どこで」「どんな気持ちで」買ってもらうのかが把握できるようになるため、企業は、顧客自ら商品やサービスを購入したいと思う状態を作ることができ、売上向上につなげることができます。

### POINT

## 個々のマーケティングスキルが、 企業成長の力ギを握る



「企画部・開発部」が  
マーケティングを  
知っていると…

消費者の心理やニーズに沿った、  
商品・サービスのアイデアが自然に生まれて  
くるようになる。



「制作部」が  
マーケティングを  
知っていると…

消費者が思わず「反応してしまう」広告、  
動画などの様々なコンテンツが  
作れるようになる。



「営業部」が  
マーケティングを  
知っていると…

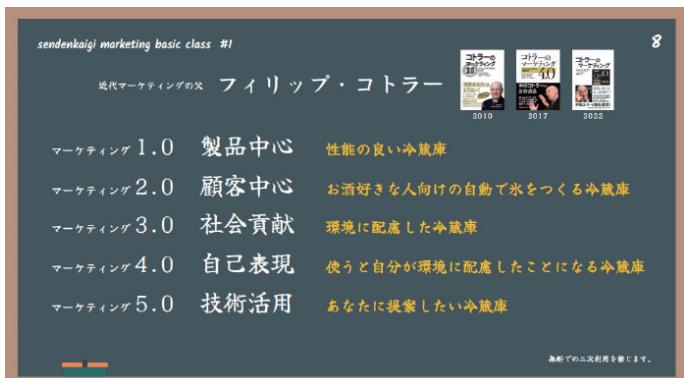
自社の商品やサービスについて  
「どこが強みか」「どこが弱みか」を理解、  
分析して提案できるようになる。



「販促部」が  
マーケティングを  
知っていると…

「誰のための商品であるか」  
「誰に商品を知ってもらえばいいのか」を  
明確にした上で、活動ができるようになる。

## マーケティングの原理原則を知る



北村氏の講義資料より

まずははじめに、マーケティングという言葉の意味について正しく理解します。近代マーケティングの父フィリップ・コトラーが提唱するマーケティングの定義などから、「マーケティングとはそもそも何か」について、これまでの歴史的な流れをふまえ理解するとともに、ニュアンスや「なんとなく」で捉えられがちなマーケティングを、体系立てて学びます。

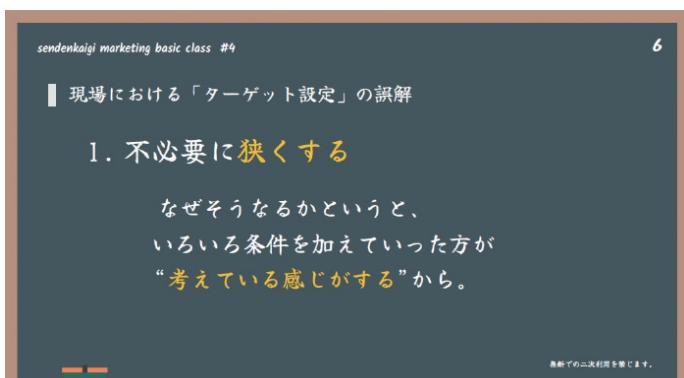
## “机上の空論”にならないマーケティング・フレーム活用術を学ぶ



北村氏の講義資料より

フィリップ・コトラーの「STP分析」や「購買行動モデル」など、マーケティングの基本フレームや意味合いをきちんと理解します。「頭では分かっていても、実務では役に立たない」事態に陥らないために、言葉としてではなく、使い方の具体例を学びます。実際の現場でフレームを活用する講師の経験から、書籍を読むだけでは得られない実践知を得ます。

## 仕事で活かすうえで、覚えておきたい使用上の注意点



北村氏の講義資料より

マーケティングは、買う人や環境によって常に変化するものであり、有名なフレームも変化し続けるものです。決まったシチュエーションで同じフレームや理論を使うわけではありません。本講座では迷った時に立ち止まって考えるときのポイントや各マーケティング・フレームの向き・不向きを学びます。

# カリキュラム

時間	テーマ	講義内容
第1部 約20分	マーケティングとはそもそも何か?	マーケティングの定義／近代マーケティングの父「フィリップ・コトラー」について／マーケティングの変化は顧客(生活者)の変化／モデル化の試み「マーケティング・フレーム」／「購買行動モデル」について
第2部 約20分	マーケティングはゴルフのようなもの。 様々な状況に合わせて使う クラブ(フレーム、理論)を選択する。 ～疑いの型は“3つの過剰”～	フレームや理論などをどんな時でも使うわけではない／最適なマーケティングを考えるときの道標“疑いの型”とは／疑いの型①過剰な一般化／疑いの型②設計／疑いの型③データ重視
第3部 約20分	「ブランド認知」の話	教科書における「ブランド認知」の扱われ方／D.A.アーカー『ブランド・エクイティ戦略』について／K.L.ケラー『ブランド・レジナンス・ピラミッド』について／現場における「ブランド認知」の誤解／現場における「ブランド認知」ご使用上の注意
第4部 約20分	「ターゲット設定」の話	教科書における「ターゲット設定」の扱われ方／フィリップ・コトラー「STP分析」について／現場における「ターゲット設定」の誤解／現場における「ターゲット設定」ご使用上の注意
第5部 約20分	「パーセスファネル」の話	教科書における「パーセスファネル」の扱われ方／パーセスファネルについて／インフルエンスファネルについて／現場における「パーセスファネル」の誤解／現場における「パーセスファネル」ご使用上の注意
第6部 約20分	「カスタマージャーニー」の話	教科書における「カスタマージャーニー」の扱われ方／顧客接点について／ドン・シュルツ「IMC」について／現場における「カスタマージャーニー」の誤解(カスタマージャーニーとパーセプションフロー・モデルの違い)／現場における「カスタマージャーニー」ご使用上の注意
第7部 約20分	「インサイト分析」の話	教科書における「インサイト分析」の扱われ方／桶谷功『インサイト』について／森岡毅『USJ』を劇的に変えた、たった1つの考え方について／現場における「インサイト分析」の誤解／定性調査でインサイトが出てこない理由／現場における「インサイト分析」ご使用上の注意／インサイトを考えための切り口
第8部 約20分	「重回帰分析」の話	教科書における「重回帰分析」の扱われ方／そもそも重回帰分析とは?／「アトリビューション 広告効果の考え方を根底から覆す新手法」について／オンもオフも含めて貢献度を測るには／現場における「重回帰分析」の誤解／現場における「重回帰分析」ご使用上の注意(実際に重回帰分析を行う際には)
第9部 約20分	状況によるマーケティングの使い分け	マーケティングにおける戦略の定義／マーケティングにおける「資源」は6つ／「かけられる予算」によるマーケティングの使い分け／「かけられる時間」によるマーケティングの使い分け／「目標の違い」によるマーケティングの使い分け／「商品カテゴリー」によるマーケティングの使い分け／「ブランドの立ち位置」によるマーケティングの使い分け／「イノベーションのジレンマ」について
第10部 約20分	マーケティングを考える順序	マーケティングを考える順序／①競合:何が自ブランドに置き換わるのか／②ターゲット:誰が自ブランドに置き換えるのか／③便益:自ブランドはターゲットに何をもたらすのか／④ターゲットの現在の心理状態／⑤ターゲットの理想の心理状態／⑥接点:ターゲットはどこで心理変容を起こすのか。

※講師・カリキュラムは都合により変更・追加となる可能性がございます。最新のカリキュラムはwebサイトからご確認ください。

## 講師プロフィール



### 北村 陽一郎 (きたむら よういちろう) 氏

電通 統合プランニング・ディレクター

1973年生まれ。東京大学教育学部卒、1996年電通入社。テレビ広告・スポーツ放送権業務などを経て、2012年より広告プランナー。自動車・食品・精密機器・金融・アプリなど幅広い広告主のプランニングに従事するかたわら、社内向けの少人数制プランニング塾「北村塾」を開講中。NPS=98.4、推奨度平均 9.89 点という圧倒的な人気を得る。著書は『なぜ教科書通りのマーケティングはうまくいかないのか』(宣伝会議)。

## 講座概要

- 受講形態：宣伝会議オンライン内でオンデマンド配信  
※お申込日から14日間視聴可能。キャンペーン中は変更となる可能性がありますので詳細はWebサイトをご確認ください。
- 受講料金：59,000円(税込 64,900円) ※申込金5,000円(税込 5,500円)を含みます
- 受講対象：マーケティングを専門に学んだことはないが、業務として知識が必要なビジネスパーソン／マーケティングに関する仕事をしているが、体系的には理解できていない方／本などを読んで手法は知っているが、実践的な使い方がよくわからない方

詳細はこちら

